

科目番号		52019	分類	地域母子保健学	履修者	高度実践助産コース			学年	
科目名	国際助産学特論 (International Midwifery)								1-2	
									配当シスター	
									通年	
担当者	○渡邊香 他3名			区分	助産師免許取得プログラム	必修	単位	1	時間数	15
授業の概要および目標							学位授与の方針との関連			
【概 要】 国際社会におけるリプロダクティブヘルス・ライツ（Reproductive Health and Rights）の現状と課題を知り、国際保健活動など国際支援の現状を理解する。 世界の出産事情や助産師活動を理解し、わが国の助産師活動における異文化的な視点を強化し、国際的な助産活動・助産ケアについて考える。 【目 標】 1. 世界の助産実践と助産師教育の概要を説明できる。 2. 国際社会におけるリプロダクティブヘルス・ライツの問題と支援を説明できる。 3. 世界の産育習俗について社会・文化的背景から考察し、説明できる。 4. 助産活動における異文化問題について説明できる。								1.自律して自然分娩の支援ができる能力		
								2.院内・院外助産システムを担うことができる能力		
							○	3.女性の生涯にわたる健康を支援できる能力		
								4.周産期の救急時に対応できる能力		
							○	5.他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力		
							○	6.研究・開発能力		
							○	7.倫理的意思決定能力		
授 業 計 画										
回	内 容						担当教員			
第1回	国際助産学の概要 世界の助産実践と助産教育・ICMの役割と機能						渡邊 他3名			
第2回	国際母子保健の潮流における日本の助産師の役割・実践									
第3回	助産・出産の文化人類学 文化的視点からみる助産ケア・子育て支援を考える									
第4回	海外における母子保健・助産活動の実際 ①									
第5回	海外における母子保健・助産活動の実際 ②									
第6回	国内（外国人妊産婦、等）に関する母子保健・助産活動									
第7回	乳幼児の栄養に関する世界の動向：母乳育児支援の実際									
第8回	総合講義、国外・国内（外国人妊産婦、等）に対する母子保健・助産活動について									
事前・事後 学習	・助産師教育のためのモデルカリキュラム一読しておくこと。 事前事後学習には30～60分程度で出来る課題を課す。 レポートを課す「国外または国内（外国人妊産婦、等）に対する助産活動・助産ケアについて」									
評価の方法	レポート(60%)、討論・発表40%などから総合的に評価する。									
参考図書 ・資料等	◎助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第6版 我部山キヨ子他 医学書院 ・助産の文化人類学 ブリジット・ジョーダン 日本看護協会出版会 2001 参考図書は適宜紹介する。 ◎は授業の必携図書のため購入を必要とする。									
備 考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。 フィードバックは適宜行う。									